

福岡市民会館



福岡市民会館の全景（福岡県立美術館屋上より撮影）

60年にわたり親しまれてきた福岡市民会館を継承する施設として福岡市拠点文化施設「福岡市民ホール」が令和7（2025）年3月に開館します。

福岡市民会館はその歴史を閉じるまで残すところ1年となりましたが、読者の皆様の記憶に残してもらいたいという思いで私たちの職場を紹介したいと思います。

福岡市民会館は福岡市民の学術文化の向上、市民福祉の増進を図るため、昭和38（1963）年10月に開館しました。以来、60年にわたってコンサートや演劇、舞踊・バレエの発表会など多くの皆様に親しまれてきました。開館当時は国際会議もできる本格的な施設として福岡市の発展に大きく寄与してきました。昭和56（1981）年に福岡サンパレスが完成するまでは、福岡市最大のホールとして国際会議をはじめ数多くの催し物に使用されていましたが、近年では福岡国際会議場やマリニメッセ福岡といった大規模コンベンション施設

設ができ、全国から多くの人たちが訪れる大会等はほとんど開かれなくなりました。それでも開館から長い年月が経過したいまも、福岡市の文化の殿堂として重要な役割を果たしています。

大ホール客席は1層スロープ式で客席数は1,770席のワンフロア型ホールであり、舞台と客席の一体感が体感できる構造になっています。回り舞台と大小の迫舞台をもち、印象的な演出や舞台転換に使用されてきました。354席を備えた小ホールも併設しています。平成21（2009）年には日本音響家協会が選出する優良ホール100選にも選ばれている施設です。

平成18（2006）年度からは指定管理者制度により株式会社福岡市民ホールサービスが管理運営を担っております。

ここで少し私たち株式会社福岡市民ホールサービスを紹介させていただきます。

福岡市民会館開館に合わせ管理業務を担うため、「株式会社福岡ホールサービスセンター」として福岡市民会



開館当時の外観



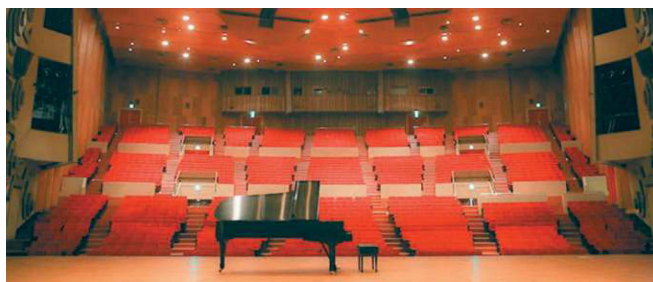
開館当時のロビー



現在のロビー

館の開館に先立ち同年10月に設立発足。会館内に本社を構え（令和5（2023）年4月に移転）、舞台技術・音響技術・照明技術をお客様に提供し、すべての催事が円滑に進行できるよう、さまざまなサポートを行ってまいりました。社名は「株式会社福岡市民会館サービスセンター」を経て、昭和53（1978）年1月に現在の株式会社福岡市民ホールサービスとなりました。まさに福岡市民会館とともに歴史を刻み、歩んできた会社です。

現在、福岡市民会館をはじめ2施設



大ホール



小ホール



2SUS & 2BOR



2FR & 調光室



2FR & 調光室階段



CL & ピン室



CL & ピン室階段



持込電源盤

の指定管理業務、福岡市の公共施設である各区の市民センターから博多座・福岡国際会議場など多数の舞台運営業務を受託しております。また、新たな施設「福岡市民ホール」でも舞台業務を受託する予定です。

閑話休題、福岡市民会館の照明設備について紹介します。

大ホールは1～2サス、1～4ボーダー、上下客SUS、各フロアコンセント、FRCLに30AC直回路とDMXOUTを備えています。ボーダーにはアンダーパイプに調光回路があり、SUS使いが可能です。

コンセントはすべて30AC型です。すべて電動、制限荷重300kg(客サスは各150kg)、バトン長18～19m。持込電源盤(カムロック出)は3相4線300A×2、3相3線225Aを備え持込器具にも十分な容量を確保できます。調光室は上手フロント2階。階段が急なので昇降には十分注意してください(CL&ピンルームもです)。現在の調光操作卓はマリオネットスターⅡ(丸茂電機製)。2048チャンネル、記憶キュー数1000、プリセットフェーダー120本3段、サブマスター20本+ベルトエンコーダ20本、JASCHII対応(COMOSはOffLine PCで変換可能)。

DMXパッチ盤あり、パッチアウト可能。フロント上下12回路(3台6色)、シーリング24回路(8台4色+6台1色)。

ピンルームはシーリング中央部、2kwクセノン4本。客席中央に直電源30AC4口、DMXIN4回線。搬入口は上手で大型2台着け可能。照明設備としては十分な機能を備えていますが、美術バトンとの距離が近く接触の恐れがあるため、大道具さんとの打合せが重要ですのでご注意ください。

最後に福岡市拠点文化施設「福岡市民ホール」を少し紹介します。(指定管理者 株式会社 福岡カルチャーベース)

福岡市民会館の老朽化に伴い令和7(2025)年3月に福岡県立美術館の南西側(現須崎公園内)に、福岡市の新しい文化拠点となる施設、「福岡市民ホール」(大ホール約2,000席、中ホール約800席)がオープンします。

大ホールは各種コンサートをはじめ、ミュージカル、バレエ、伝統芸能など幅広い演目に対応可能な設備を備える約2,000席のメインホールです。舞台/間口19.1m、奥行20.5m、高さ13m。舞台照明・客席照明ともオールLED化。カラーLEDボーダーライト、カラーLEDアッパーホリゾンライト、カラーLEDロアホリゾンライト、LEDスポットライトを採用。より多彩な照明演出に対応できる環境となっています。

中ホールは演劇、ダンス、音楽などの公演のほか、市民の文化活動の発表利用にも対応する約800席の中規模ホールです。舞台と客席が近く、臨場

感溢れる空間を演出できます。

舞台/間口16m、奥行16m、高さ9m。舞台照明はハロゲンなどの一般照明とLED照明の両方に対応可能な照明システムで、多様なニーズに対応でき、舞台照明の現状、現在と将来の技術が考慮されています。演目に応じて多様な演出ができる環境を備えています。

最後に小ホールですが、仮設約150席の平土間ホールです。さまざまな用途で活用が可能な自由度が高いホールです。演劇やピアノ発表会、ワークショップの場として利用が可能です。

福岡市民ホールに関しましては、オープン後にまたご紹介したいと思います。

最後に、開館以来半世紀以上、市民の文化芸術活動の場、優れた文化芸術の鑑賞の場として多くの皆様にご来館いただいています。文化芸術を愛する皆様のご支援、ご協力のお陰と深く感謝を申し上げます。

また、多くのコンサートや演劇公演においていただいた照明家の先輩諸氏のおかげです。ありがとうございます。新しいホールでお待ち申し上げます。引き続きよろしく願いいたします。

株式会社福岡市民ホールサービス
原田 博和



福岡市民ホール内観イメージ (HPより)